

第八十九話 未来を先取り

戦争が技術を飛躍的に進歩させる。兵器としての技術がスピノフして民の技術ともなり、国力を牽引する。まず、第二次世界大戦で登場した兵器等を概観したのち、戦争末期日本が構想した驚くべき兵器を紹介する。

1 既存兵器の発達

- ①日：軽巡洋艦並みの 14cm 主砲搭載の潜水艦
- ②各国：戦闘機の長足の進歩、大型戦略爆撃機、高速偵察機、ジェット機やロケット機等
- ③各国：潜水艦 Uボート、空母型潜水艦
- ④各国：戦車等 装甲・武装の強化、成形炸薬・個人携行可能な対戦車兵器

2 新兵器

- ①独：V2 ロケット
- ②各国：レーダー（更に技術革新し、小型化、艦艇・航空機搭載へ）、索敵&射撃管制
- ③原爆：日、米、独
- ④暗号解読技術、コンピューター研究開発
- ⑤独：V-1 有翼無人飛行機（巡航ミサイルへと戦後発展）
- ⑥独：V-2 ロケット（弾道ミサイルへと戦後発展）
- ⑦各国：四輪駆動車、バイク、サイドカー
- ⑧弾薬類：VT信管、酸素魚雷（日本）、徹甲弾
- ⑨艦艇：バルバス・バウ

3 その他：ナイロン、合成ゴム、人造石油

4 酸素魚雷

5 日本が構想した最新兵器

- (1) 1942 (S17) 年 8 月、大本営陸軍部は「世界戦争完遂ノ為ノ決戦兵器ノ考案」
「超遠距離飛行機」（後述）「特殊気球ノ能力増大」（第八十二話）関連との項目

(2) 海軍島田実験所

強力電波兵器（「Z 装置」計画あるいは「殺人光線」計画、後述）
「橋型マグネトロン」

(3) 登戸研究所

- ・強力超短波ノ基礎研究
- ・簡易通信器材ノ研究
- ・爆破焼夷資材ノ研究
- ・挺進部隊用行動資材ノ研究（防水夜光時計，耐水「マッチ」etc）
- ・写真資材ノ研究（簡易望遠写真撮影方法，複写装置，野戦写真処理用具）
- ・憲兵資材ノ研究（指紋採取用具，現場検証器材，理化学鑑識器材等）
- ・宣伝資材ノ研究



（フジミ模型）

(4) 富嶽 陸海共同

中島知久平の Z 飛行機から発展、米本土爆撃を視野に入れ、日本～太平洋横断～米本土爆撃～大西洋横断～独で給油 逆コースで帰投。全長 45m (B29 の 1.5 倍)、全幅 65m (B-29 の 1.5 倍)、爆弾搭載量 20 トン (B-29 の 2.2 倍)、航続距離は 19,400km (B-29 の 3 倍)、6 発エンジン、紆余曲折も戦局悪化もあり開発中止

(5) Z 装置 海軍の計画、極超短波の発生出力を飛躍的に増大、著名な科学者参加

* 日本は決して技術構想力で負けた訳ではない。具体・実現化し得る体制、工業力、生産力等の基盤が脆弱だったのだろう。

（第八十九話 了）